

### 198.楊柏散

参考文献名		揚梅皮	黄柏	犬山椒	蜀椒	崖椒
診療医典	注1	2	2		1	
診療の実際	注2	2	2			1
処方集		2	2	1		
処方分量集		2	2	1		

〔注1〕 打撲後の腫痛する場所に酢または卵白あるいはその両者を加えてよく混和し、泥状となし塗布するときは、吸収を促し、痛みを和らげ、回復を早める。皮膚の弱いものは、酢によってかぶれを生ずることがあるから、希薄にして用い、交換するたびに生姜湯で拭くとよい。あるいは酢を用いず小麦粉を加えて水でねり用いてもよい。

〔注2〕 捻挫，打撲

処方番号：199

処方名：薏苡仁湯（よくいにんとう）

**処方構成：**

麻黄 4、当帰 4、蒼朮 4（白朮も可）、薏苡仁 8-10、桂枝 3、芍薬 3、甘草 2

**用法・用量：**

湯

**しばり：**

体力中等度で、関節や筋肉のはれや痛みがあるものの次の諸症

**効能・効果：**

関節痛、筋肉痛、神経痛

原典：明医指掌

出典：勿誤薬室方函

**解説：**

薏苡仁湯には『外科正宗』の方もあり、また『一貫堂』の方には薏苡仁散があるが、今回の基準処方では不収載となっている。附子剤を用いても症状の改善しないものに用いる。血虚を伴う痛みが目標となる。朮は蒼朮を使用するのが望ましい。

199. 薏苡仁湯

参考文献名		麻黄	当帰	朮	蒼朮	薏苡仁	桂枝	桂皮	芍薬	甘草	生姜
処方分量集		4	4	4	-	8	3	-	3	2	-
診療医典	注1	4	4	4	-	8	3	-	3	2	-
診療の実際	注2	4	4	4	-	8	3	-	3	2	-
応用の実際	注3	4	4	4	-	10	3	-	3	2	-
後世要方解説	注4	4	4	4	-	8	3	-	3	2	-
漢方あれこれ	注5	4	4	4	-	8	3	-	3	2	-
明解処方		4	4	4	-	8	3	-	3	2	-
黙堂柴田良治処方集		4	4	-	4	10	-	3	3	2	1

〔注1〕 関節リウマチの亜急性期および慢性期に入った場合によく用いられる。多発性関節リウマチ、漿液性関節炎によく用いられ、また、結核性関節炎、筋肉リウマチや脚気などにも応用される。

〔注2〕 急性又は亜急性期となって関節がまだ腫痛して、軽快しないものに用いる。

〔注3〕 四肢の諸関節や筋肉の痛みに用いる、汎発性関節リウマチ、漿液性関節炎によく用いられるほか筋肉リウマチ、結核性関節炎にも用いられる。

〔注4〕 この方は関節リウマチの亜急性期および慢性期に入りたる場合に多く用いられる。麻黄加朮湯、麻杏薏苡湯よりも重症にて、これらの方を用いても治せず熱、腫痛、荏苒として去らざるもの。また、慢性となって桂芍知母湯の一步手前のものに用いてよい。関節リウマチの亜急性期、または慢性症、疼痛腫脹それ程猛烈ならず荏苒として癒えざるもの、筋肉リウマチ。

〔注5〕 リウマチで患部がはれて熱をもっているが、そうひどくなく、やがて慢性化する傾向をみせているものに用いる。

処方番号：200

処方名：薏苡附子敗醬散（よくいぶしはいしょうさん）

処方構成：

薏苡仁 1-16、加エブシ 0.2-2（白川附子 1-3 でも可）、敗醬 0.5-8

用法・用量：

湯

しばり：

体力虚弱な人の次の症状

効能・効果：

熱を伴わない下腹部の痛み、湿疹、皮膚の荒れ、いぼ

原典：金匱要略

出典：

解説：

体力が衰えて・発熱も無い・腹部軟弱な人の腸癰（虫垂炎類似症状）や下腹部の炎症性化膿性の諸疾患に用いられる。原典に「腸癰の病たる、その身甲錯（肌荒れ）し、腹皮急（腫れ）、これを按じて濡（なん）にして腫状（腫れもの）の如し、腹に積聚（かたまり）なく、身に熱無く、脈数、これ腸内に癰膿ありとなす。」とあり、虚弱者の肌荒れにも用いている。

（山田光胤著：『漢方処方応用の実際』を参考とした）

200. 薏苡附子敗醬散

参考文献名	薏苡仁	附子	白川附子	敗醬	用法・用量
漢方診療医典 注1	10	0.5-1		3	
現代漢方入門 注2	10	0.5-1		3	
新版漢方医学<創元医学新書>	10	0.5		3	
金匱要略入門	1	0.2		0.5	*1
漢方処方応用の実際	10	0.5		5	
症候による漢方治療の実際 注3	10	0.6		5	
経験・漢方処方分量集	10	1		3	
漢方入門講座 注4	8		1-3	4	
改訂新版漢方処方分量集 注5	10	2		5	*2
増補改訂漢方入門講座上下 注6	10	2		5	*3 *4
新撰類聚方 注7	10	2		5	
漢方薬入門 注8	10	1		3	
改訂漢方古方要方解説 注9	4	0.8		2	*5
漢方精撰百八方 注10	16	0.5-1		8	
実用漢方療法 注11	16	0.3-1.0		6	

\*1 以上3味。各々細末となして混合し、その1.0瓦を水200銚をもつて煮て100銚となし頓服せよ。服後利尿が起こる。

\*2 右の割合で粉末とし2.0を水80で煮て40に煮つめ頓服

\*3 右の割合で粉末とし2.0を水80.0を以て煮て40.0とし頓服する

\*4 薏苡仁8.0、敗醬4.0、白川附子1.0を水200ccで煮て100ccに煮つめ、滓をこして取り除き一日3回に之を分服する。

\*5 右三味、混和、細末と為し、水1合2勺を以て、薬末4.0を煮て6勺を取り、滓を去り、服用す。

注1

本方は古人が腸癰とよんだ病気のために設けたもの。これは今日の虫垂炎にあたる。このごろの虫垂炎は本方の適応症は少ないが、腹壁は軟弱で、盲腸部に限局して腫瘤をふれ、脈弱数、顔面蒼白、気力衰微しているものを目標とする。このような患者はすでに患部に化膿の徴候があり、本方が的中すれば、尿量が増加し、腫瘤は吸収され、諸症軽快する。

注2

腸癰の初期で体力のあるものは、大黃牡丹皮湯を用い、慢性化してもひどく衰弱しないうちは腸癰湯がよいが、衰弱して体力が衰えたもの、生来甚だ虚弱なものに本方を用いる。もし脈が遅緊で発熱があり、悪寒がして、自汗のあるものは、大黃牡丹皮湯の証である。誤ってこういうものに本方を用いると、かえって症状が悪化することがあるという。また本方は虚弱な体質者の肌荒れに類する諸侯にも効がある。

注3

薏苡附子敗醬散を用いる患者は、虚証で陰証であるから、腹部も軟弱で、抵抗が無く、腰や足が冷えこしけの色がうすいのを特徴とする。

注4

発熱悪寒、局所の訴え、舌は大抵湿潤して薄い白苔を被っている。中国では敗醬がカノコソウになる説もある。

注5

目標：虚証の腹部化膿症、応用は急性虫垂炎、限局性化膿性腹膜炎、帯下、肛囲炎、痔漏

注6

敗醬がカノコソウになることもある。使用範囲は透壁性腹膜炎、穿孔性腹膜炎、大網圍繞、膿瘍等が結合された場合であって、単純なカタル、出血性、慢性の場合には適応症にならない。

注7

急性虫垂炎兼局限性腹膜炎又は、膿瘍、腸結核、結核性腹膜炎の急性発作、骨盤腹膜炎、化膿性付属器炎、バルトリン氏腺炎、下腹腎腰股部のカルブンケル皮下膿瘍等で発熱疼痛腫脹脈数皮膚甲錯のもの 白帯下に使用した例有り 水虫・いぼ・失神・進行性手掌角皮症等の虚症でカサカサになり、痂皮或いは落屑多く、或いは一部膿疱性のももの

注8

虫垂炎、盲腸炎に用いる。腫脹が慢性的になり皮膚のつやが悪く、腹部軟弱で脈頻数であるものに使用

注9

①子宮内膜炎等にして、白帯下夥しく、その脈沈緊なる証②蟲様突起炎(俗に所謂盲腸炎)にして、その慢性無熱の証、或いは自潰排膿する等の証。③局限性鞏皮症等

注10

皮膚がかさつき、腹皮はすじばり、回盲の部を押したら痛む。

注11

皮膚全体がざらつきぎみで、腹力がやや弱く、右下腹部に軽い抵抗と圧痛があるときに使用する

処方番号：201            処方名：抑肝散（よくかんさん）

**処方構成：**

当帰 3、釣藤鈎 3、川芎 3、白朮 4（蒼朮も可）、茯苓 4、柴胡 2-5、甘草 1.5

**用法・用量：**

湯

**しぼり：**

体力中等度をめやすとして幅広く用いることができる。神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの次の諸症

**効能・効果：**

神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症、歯ぎしり、更年期障害、血の道症

原典：保嬰撮要

出典：

**解説：**

(1)保嬰撮要の記載に始まるといわれる。(2)本方は本来、小児のひきつけに用いられたもので肝気が亢ぶり、神経過敏となり、興奮して眠れないものを目標にする。(3)抑肝散の名は肝気の興奮を抑え鎮静させる効能に基づく。(4)本方は四逆散の変方で、虚状の小児急驚風と称する脳神経の刺激症状を鎮める方剤である。(5)神経性斜頸に用いる。

## 201.抑肝散

参考文献名	当 帰	釣 藤 鈎	川 芎	朮	茯 苓	柴 胡	甘 草	
処方分量集	3	3	3	4	4	2	1.5	
診療医典	注1	3	3	4	4	5	1.5	
応用の実際	注2	3	3	4	4	5	1.5	
漢方あれこれ		3	3	4	4	2	1.5	
明解処方		記載なし						
後世要方解説		記載なし						
臨床応用漢方処方解説		3	3	3	4(白)	4	2	1.5

〔注1〕 癇症，神経症，神経衰弱，ヒステリーなどに用いる。また，夜啼，不眠症，癇癩持ち，夜の歯ぎしり，てんかん，不明の発熱，更年期障害，血の道症，四肢萎弱症，神経性斜頸。

〔注2〕 神経症，不眠症，血の道症，脳出血後遺症，小児の夜啼症，くる病，癇癩持ち，夜の歯ぎしり。



処方番号：201A

処方名：抑肝散加陳皮半夏（よくかんさんかちんぴはんげ）

**処方構成：**

当帰 3、釣藤鈎 3、川芎 3、白朮 4（蒼朮も可）、茯苓 4、柴胡 2-5、甘草 1.5、陳皮 3、半夏 5

**用法・用量：**

湯

**しぼり：**

体力中等度をめやすとしてやや消化器が弱いものに幅広く用いることができる。神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの次の諸症

**効能・効果：**

神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症、更年期障害、血の道症、齒ぎしり

原典：本朝経験方

出典：

**解説：**

(1) 本方は四逆散の変方である。(2) 抑肝散に陳皮、半夏を加味したものである。(3) 虚証の小児が脳神経の刺激症状を起こした時の鎮静に効がある。

201A.抑肝散加陳皮半夏

参考文献名	当帰	釣藤鈎	川芎	朮	茯苓	柴胡	甘草	陳皮	半夏
処方分量集	3	3	3	4	4	2	1.5	3	3
診療の実際	3	3	3	4	4	2	1.5	3	5
診療医典 注1	3	3	3	4	4	2	1.5	3	5
応用の実際 注2	3	3	3	4	4	5	1.5	3	5
後世要方解説 注3	3	3	3	4(白)	4	2	1.5	3	5
明解処方	3	3	3	4	4	5	1.5	3	5
漢方あれこれ	記載なし								

〔注1〕 神経衰弱症、ヒステリー、婦人更年期障害に発する神経症、中風、夜啼、疲労症、四肢痿弱症、悪阻、小児の癇症などに応用する。

〔注2〕 腹筋が軟弱無力となり、左の腹部大動脈の動悸がひどく亢進したものに用いる。神経症、不眠症、血の道症、小児の夜啼症、くる病、脳出血後遺症、癇癩持ち、夜の歯ぎしり(大人、小児とも)など。

〔注3〕 癇症、神経衰弱、ヒステリー、更年期障害、中風、夜啼、陰痿、疲労病、四肢痿弱病、悪阻。

処方番号：201B

処方名：抑肝散加芍薬黄連（よくかんさんかしゃくやくおうれん）

**処方構成：**

当帰 3、釣藤鈎 3、川芎 3、白朮 4（蒼朮も可）、茯苓 4、柴胡 2、甘草 1.5、芍薬 4、黄連 0.8-1.5

**用法・用量：**

湯

**しばり：**

体力中等度をめやすとして幅広く用いることができる。神経のたかぶりが強く、怒りやすい、イライラなどがあるものの次の諸症

**効能・効果：**

神経症、不眠症、小児夜泣き、小児疳症、齒ぎしり、更年期障害、血の道症

原典：本朝経験方

出典：

**解説：**

肝の失調の治療を得意とした和田東郭は、抑肝散に芍薬を加えて半身不随の治療に応用している。抑肝散適応症では肝火上亢と云った強い肝気の亢りが見られるが、その背景には肝血不足が存在することが多い。不足する肝血を補い潤すために、和田東郭は芍薬を加えたわけである。浅田宗伯は、抑肝散加芍薬に更に黄連羚羊角を加えて半身不随に用いている。羚羊角が高価に過ぎるために、浅田宗伯の高弟新妻莊五郎は羚羊角を去り、抑肝散加芍薬黄連を同様の病態に用いるようになった。肝火上亢は容易に心に影響が及び、心の熱症状を来し不眠、不安を伴うようになる。このため黄連を加え心熱を清解するようにしているのが抑肝散加芍薬黄連である。

脳血管障害後遺症をはじめ過緊張症、神経症でイラダチの強い場合、不眠症でイラダチが強いとき、更年期障害でイラダチの強いタイプ、チックなど筋痙攣を繰り返すとき、パーキンソン病のように筋肉の硬直を認めるときなどに応用される。過敏性腸症候群の便秘タイプでイラダチを認めるときにも良い効果を認めている。

抑肝散適応症で消化器が弱いタイプには抑肝散加陳皮半夏を用いる。陳皮半夏を加えることにより、二陳湯或いは六君子湯の合方の意味を持たせている。抑肝散加陳皮半夏の腹証で腹部大動脈の拍動を強く触れるような記載がされている場合があるが、消化器が弱く腹壁も軟弱な場合腹部大動脈の拍動を触れることもある。しかしその腹証にこだわらなくてもよい。

イラダチの強いタイプに加味逍遙散も用いられるが、抑肝散と加味逍遙散のイラダチの違いは、加味逍遙散は陰性のイラダチでイラダチを外に出さず、心の中でこらえているタイプに適應する。抑肝散は陽性のイラダチで外から見ても苛立っているのが分かる。ただ加味逍遙散のイラダチも女性の月経時に陽性に変化し、イラダチを外に向かって爆発する傾向にある。すなわち月経時に苛立ってよく怒るタイプの人が加味逍遙散の適應となる。

201B.抑肝散加芍薬黄連

参考文献名	当帰	釣藤鉤	川芎	蒼朮	朮	茯苓	柴胡	甘草	芍薬	黄連	用法・用量
現代漢方入門 注1	3	3	3		4	4	2	1.5			
成人病の漢方療法 注2	3	3	3		4	4	2	1.5			
日本東洋医学雑誌 第31巻第4号									4	0.8- 1.5	

注1  
抑肝散の処方。この処方に芍薬、黄連を加える

注2  
抑肝散の処方。抑肝散の症に興奮がひどいときは芍薬、黄連を加える

処方番号：202

処方名：六君子湯（りっくんしとう）

**処方構成：**

人参 2-4、白朮 3-4（蒼朮も可）、茯苓 3-4、半夏 3-4、陳皮 2-4、大棗 2、甘草 1-1.5、  
生姜 0.5-1（ヒネショウガを使用する場合 1-2）

**用法・用量：**

湯

**しばり：**

体力中等度以下から虚弱で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの次の諸症

**効能・効果：**

胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐

原典：万病回春

出典：

**解説：**

四君子湯と二陳湯の合方である。四君子湯の証で胃液分泌過多あるもので四君子湯ほど衰弱のひどくない、慢性病のものに広く応用される処方である。

朮は白朮を使用するのが望ましい。

202.六君子湯

参考文献名	人参	白朮	朮	茯苓	半夏	陳皮	橘皮	大棗	甘草	生姜	乾生姜	干姜	ひね生姜
処方分量集	4	4	-	4	4	2	-	2	1	-	0.5	-	-
診療の実際 注1	4	4	-	4	4	2	-	2	1	2	-	-	-
診療医典 注2	4	4	-	4	4	2	-	2	1	2	-	-	-
症候別治療	4	-	4	4	4	2	-	2	1	2	-	-	-
処方解説 注3	4	4	-	4	4	2	-	2	1	-	0.5	-	-
後世要方解説	3	3	-	3	4	2	-	2	1	1	-	-	-
漢方百話	4	4	-	4	4	2	-	-	1	-	-	-	-
応用の実際 注4	4	-	4	4	4	2	-	2	1	2	-	-	-
明解処方	4	-	4	4	4	2	-	-	1.5	-	-	-	-
漢方処方集	2	3	-	3	4	4	-	2	2	-	-	1	-
漢方入門講座 注5	4	-	4	4	4	-	2	2	1.5	-	-	-	2
精撰百八方 注6	3	-	3	3	3	2	-	2	1.5	2	-	-	-
成人病の漢方療法	4	4	-	4	4	2	-	2	1	2	-	-	-
基礎と診療	2	3	-	3	4	4	-	(2)	1.5	(2)	-	-	-

( )は加えなくともよい。

注1 心下部痞え、食欲不振、貧血を呈し脈も腹も共に軟弱で、日常手足の冷え易い虚証のものを目標とする。

注2 胃腸虚弱にして四君子湯の証で力があり、胃内停水のあるものに用いる。心下部痞え、食欲不振、疲労しやすく、貧血を呈し、脈も腹もともに軟弱で、日常手足の冷えやすい虚証のものを目標とする。

注3 胃腸の弱い者で、胃内停水があり、脈腹ともに軟弱で、心下部痞塞感があり、食欲が衰え、疲労しやすく、貧血して、日常手足が冷えやすく、全体に虚証のものを目標とする。

注4 体質が虚弱で、皮膚や筋肉の緊張が悪く、多く痩せ型の貧血性で、いわゆる弛緩体質（無力性体質）の人が、心下部（胃部）が痞え、食欲不振、瘦削（体重減少）などを訴えるもの。脈に力がなく、腹部は軟弱無力で、心下部や臍の近傍に振水音を認める。

注5 胃腸の虚弱及びそれに伴う疲労下痢、食欲不振等を治す。

注6 虚弱体質ではあるが、余り痩せ衰えてはいない。食べものを少しとると腹が張ってたべられなくなる。腹部に心下部振水音がある。

処方番号：202A 処方名：香砂六君子湯（こうしゃりっくんしとう）

処方構成：

人参 3-4、白朮 3-4（蒼朮も可）、茯苓 3-4、半夏 3-4、陳皮 2、香附子 2、大棗 1.5-2、  
生姜 0.5-1（ヒネシヨウガを使用する場合 1-2）、甘草 1、縮砂 1-2、藿香 1-2

用法・用量：

湯

しばり：

体力中等度以下から虚弱で気分が沈みがちで頭が重く、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえて  
疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの次の諸症

効能・効果：

胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐

原典：内科摘要

出典：

解説：

人参湯、四君子湯、六君子湯と香砂六君子湯はいずれも近似の薬方であり、それらの処方構成は次の通りである（山田光胤：『漢方処方応用の実際』を引く）

薬方名	生薬名	人 参	甘 草	朮 朮	生 姜	乾 姜	茯 苓	大 棗	陳 皮	半 夏	香 附 子	藿 香
独参湯	* 1	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
人参湯(理中湯)	* 2	3	3	3	—	3	—	—	—	—	—	—
四君子湯	* 3	4	1.5	4	1.5	—	4	1.5	—	—	—	—
六君子湯	* 4	4	1	4	2	—	4	2	2	4	—	—
香砂六君子湯	* 5	4	1	4	2	—	4	2	2	4	2	2

\* 1 薛化十六種、\* 2 傷寒・金匱、\* 3 和剂局方、\* 4 和剂局方、\* 5 内科摘要

以上の薬方は人参湯を基幹にしているものとすればその使用目標は、冷え症で血色がすぐれず、胃腸が弱く吐いたり下したりし、また尿の近いものに用い、四君子湯はそれらの症状に加えて食べると胃のもたれるもの、六君子湯は胃の停水が明瞭で食欲のないもの、香砂六君子湯はみぞおちのつかえがひどく気鬱の症状あるものに用うものとしている。

朮は白朮を用いるのが望ましい。

## 202A香砂六君子湯

参考文献名		人 参	朮	白 朮	茯 苓	半 夏	陳 皮	香 附 子	大 棗	生 姜	乾 生 姜	甘 草	縮 砂	藿 香
診療医典	注1	3	3	-	3	3	2	2	1.5	1.5	-	1	1	1
治療の実際		3	3	-	3	3	2	2	1.5	1.5	-	1	1	1
処方解説	注2	4	-	4	4	4	2	2	2	-	0.5*	1	2	2
応用の実際	注3	4	4	-	4	4	2	2	2	2	-	1	2	2
処方分量集		3	-	3	3	3	2	2	1.5	-	1	1	1	1
漢方処方集	注4	3	-	3	3	6	3	3	2	2	-	1.5	2	2

\* 辛味に敏感の人には乾生姜を0.3にし、あるいは去ってもよい。

〔注1〕 手足が冷え、胃腸が弱く胃内停水があり、とくにみぞおちのつかえを訴え、気うつし、食が進まず胃のもたれるものに用う。慢性胃腸炎、胃弱症、病後の食欲不振、嘔吐、慢性腹膜炎、つわり、虚弱な小児の感冒、神経衰弱、胃潰瘍（止血後）などに用う。

〔注2〕 胃アトニー症、胃癌、消化不良症、自家中毒症、虚弱者の胃腸型感冒、肩こり、虚弱な老人や脳溢血患者の養生薬に応用される。

〔注3〕 慢性になった軽い腹痛のあるものや、憂うつで不安感があり、頭重疲労性亢進、倦怠感などの神経症状を訴えるものに用いる。

〔注4〕 熱病後微熱がとれず咳が止まらず、気力の弱いもの。あるいは老人虚弱者などが、食後になると至って眠くなり、頭も重く手足がだるく気が塞がるもの。また腹がはり、あくびが出るもの：胃アトニー、病後の食欲不振、胃酸過多症、減酸症。



処方番号：202B

処方名：柴芍六君子湯（さいしゃくりっくんしとう）

**処方構成：**

人参 4、白朮 4（蒼朮も可）、茯苓 4、半夏 4、陳皮 2、大棗 2、甘草 1、  
生姜 0.5-1（ヒネショウガを使用する場合 1-2）、柴胡 3-4、芍薬 3

**用法・用量：**

湯

**しぼり：**

体力中等度以下から虚弱で、神経質であり、胃腸が弱くみぞおちがつかえ、食欲不振、腹痛、貧血、冷え症の傾向のあるものの次の諸症

**効能・効果：**

胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐、神経性胃炎

原典：勿誤薬室方函

出典：

**解説：**

六君子湯に柴胡、芍薬を加えた処方である。六君子湯を用いたいようなときで、季肋部が一杯になったような感じか、重苦しい感じがあり、神経質になっているものに用いる。

朮は白朮を用いるのが望ましい。

202B.柴芍六君子湯

参考文献名	人 参	白 朮	朮	茯苓	半 夏	柴 胡	芍 薬	陳 皮	大 棗	生 姜	乾 生 姜	干 姜	甘 草
処方分量集	4	4	-	4	4	3	3	2	2	-	1	-	1
診療の実際 注1	4	4	-	4	4	3	3	2	2	2	-	-	1
診療医典 注2	4	4	-	4	4	3	3	2	2	2	-	-	1
症候別治療	4	-	4	4	4	4	3	2	2	2	-	-	1
処方解説 注3	4	4	-	4	4	4	3	2	2	-	0.5	-	1
後世要方解説 注4	3	3	-	3	4	3	3	2	2	1	-	-	1
漢方百話	4	4	-	4	4	3	3	2	2	-	1	-	1
応用の実際 注5	4	-	4	4	4	4	3	2	2	2	-	-	1
明解処方	4	-	4	4	4	3	3	2	-	-	-	-	1.5
漢方処方集	3	3	-	4	4	4	4	3	2	-	-	1	2
漢方入門講座	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
漢方医学	4	4	-	4	4	3	3	2	2	2	-	-	1
精撰百八方	( )	-	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	-	-	( )
古方要方解説	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
成人病の漢方療法	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
黙堂柴田良治処方集	4	4	-	4	4	3	3	2	2	1	-	-	1

〔注1〕 六君子湯の症で、腹直筋の拘攣、或は腹痛のあるものに用いられる。

〔注2〕 六君子湯の症で、腹直筋の拘攣、あるいは腹痛のあるものに用いられる。

〔注3〕 六君子湯の証で、腹直筋の拘攣と、胸脇苦満の症とが少しく認められ、あるいは腹痛をともなっているものにはこの加減方がよい。

〔注4〕 六君子湯証のようであって、稍々心下に拘攣、痞鞭を証明する場合に用いられる。

〔注5〕 六君子湯の証に準じ、しかも腹証に胸脇苦満、腹直筋攣急などがあるものである。虚実としては、小柴胡湯より虚して、胃内停水のあるときと考えるとよい。

処方番号：2020

処方名：化食養脾湯（かしょくようひとう）

処方構成：

人參 4、白朮 4、茯苓 4、半夏 4、陳皮 2、大棗 2、神麴 2、麦芽 2、山楂子 2、縮砂 1.5、生姜 1、甘草 1

用法・用量：

湯

しぼり：

体力中等度以下から虚弱で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすいものの次の諸症

効能・効果：

胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐

原典：証治大還

出典：

解説：

六君子湯に縮砂、神麴、麦芽、山楂子を加えた処方である。無力性体質のもの食欲不振に用いる。

202C.化食養脾湯

参考文献名	人 参	白 朮	茯 苓	半 夏	陳 皮	大 棗	新 麴	麥 芽	山 查 子	縮 砂	乾 生 姜	生 姜	甘 草	用法・用量
処方分量集	4	4	4	4	2	2	2	2	2	1.5	1	-	1	*
診療の実際	4	4	4	4	2	2	2	2	2	1.5	-	2	1	**
診療医典	4	4	4	4	2	2	2	2	2	1.5	-	2	1	**
症候別治療	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
後世要方解説	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
漢方百話	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
応用の実際	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
明解処方	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
漢方処方集	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
漢方入門講座	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
漢方医学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
精撰百八方	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
古方要方解説	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
成人病の漢方療法	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

\* 参考文献すべて、六君子湯に縮砂1.5、神麴、麦芽、山楂子各2を加う、と記載あり。

〔注1〕 胃アトニー症(胃筋衰弱症)： 平胃散の証に似て一層病状が進み、顔貌は血色に乏しく、脈は軟弱となり、腹壁は菲薄で弛緩し、食後には倦怠、眠気を催し、また頭重、眩暈を訴えるものに用いる。

胃下垂症：無力性體質で、腹壁が弛緩し、皮膚軟弱蒼白のもので、胃部壓重感、食欲不振、頭痛、眩暈、四肢倦怠等を訴える場合に用いる。

胃拡張症：全身の栄養が衰え貧血し、皮膚は菲薄となって弛緩し、四肢は冷えやすく、脈博軟弱となり、胃部停滞、食欲不振のものに用いる。

〔注2〕 胃拡張：全身の栄養が衰え貧血し、皮膚が菲薄となって弛緩し、四肢は冷えやすく、脈は微弱となり、心下痞、食欲不振のものに用いる。